

私が高校生のとき、英語の勉強をしていて、all the better for という熟語が出てきました。意味は「～だから、よりいっそう」です。そして、この熟語を使った有名な例文は“I like him all the better for his faults.”です。訳は「私は彼には欠点があるから、より一層好きだ。」となります。これを見たとき、サンドイッチマンじゃありませんが、「ちょっと何言っているかわかんない。」と思いました。どんなに好きな人でも、その人の欠点をみて、なんでより一層好きになれるのだろう、と。百年の恋も冷めちゃうんじゃないか、と。当時、私の母親が「お父さんは、お酒さえ飲みすぎなければ、優しくていい人なんだけどね…」なんてこぼしていたように、例文が「彼に欠点さえなければ好きだ」であれば、私も納得していたはずですが、真逆の意味、「欠点があるからより一層好きだ」とは、いったいどういうことなんだろう、と、それ以来、ずっと私の心にひっかかる例文となりました。

英語の教員としてこの熟語 all the better for を図らずも何度も生徒に教えることとなりましたが、聖霊学園で働くようになり、イエス様の教えに触れるにつれ、この熟語の意味が少しずつ理解できるようになりました。特に、長崎南山中学高等学校の校長先生である西経一神父様の講話を聞いたときは、目から鱗が落ちる思いになりました。その内容は、あなたが結婚を考える人に会ったとき、「どうして私を結婚相手に選んだか」聞いてみるといい、というものでした。そのとき、「あなたが美人だから」とか「あなたは心がやさしいから」とか「頭がいいから、お金持ちだから」と言う人とは結婚しない方がいいということです。じゃあ、なんて答えた人と結婚すればよいのでしょうか。それは、「あなたが、あなただから。」そう言ってくれる人と結婚しなさいというお話でした。あなたは、かけがえのない人で、他のどんなものとも交換できない大切な人です。今までも、これからも、二度と現れることのない、たったひとりの人です。世界中どこを探しても、二人といない、たったひとりの人なのです。

本当の愛に、理由や条件などありません。今のあなたが将来、美人じゃなくなっても、心が優しくなくなっても、お金がなくなっても、欠点があったとしても、あなたがあなただから好きなんだというのが本当の愛なのだそうです。あなたは、理由なしに、すばらしいのです。そして、あなたも、そのように相手を愛することができる人なのだそうです。

「信仰と、希望と、愛、この三つは、いつまでも残る。

その中で最も大いなるものは、愛である。」

コリントの信徒への手紙 I 13 章 13 節